

第1回胡屋地区交通結節点整備検討委員会 議事録

1. 開催日時：令和6年10月24日（木）10：00～11：30

2. 場 所：沖縄アリーナ5F ラウンジ及び Web

3. 出席者：○委員

神谷 大介	琉球大学工学部工学科 社会基盤デザインコース 准教授 【委員長】
池田 孝之	琉球大学 名誉教授
羽藤 英二	東京大学大学院工学系研究科（工学部） 教授（Web）
石垣 綾音	株式会社さびら 事業推進統括
慶田 佳春	一般社団法人沖縄県バス協会 専務理事
大城 晃	沖縄バス株式会社 取締役運輸部長
比嘉 良尚	東陽バス株式会社 運輸部長
小川 吾吉	株式会社琉球バス交通 代表取締役
島袋 隆	中部観光バス株式会社 代表取締役会長（欠席）
大城 直人	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会 専務理事
比嘉 正也	沖縄商工会議所 中小企業振興部 部長
伊禮 本子	沖縄県警察本部 交通規制課 次席（代理出席）
仲本 健	沖縄県沖縄警察署 地域交通官
平良 秀春	沖縄県 企画部 交通政策課 課長
富本 萌	沖縄県 土木建築部 道路街路課 企画調整班 主任（代理出席）
前武當 聡	沖縄県 土木建築部 道路管理課 課長（欠席）
渡嘉敷 真理子	沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課 企画班長（代理出席）
森山 雅人	沖縄市 総務部 部長（欠席）
知念 靖	沖縄市 企画部 部長
仲村渠 清	沖縄市 建設部 部長（欠席）
川満 輝繁	沖縄市 建設部 参事
花城 博文	沖縄市 経済文化部 部長
亀谷 匡哉	沖縄総合事務局 運輸部 企画室 室長
関 信郎	沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官
具志堅 清一	沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 課長
久場 兼治	沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課 課長
宮川 英明	沖縄総合事務局 南部国道事務所 所長

○事務局

沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通担当

沖縄県 企画部 交通政策課

内閣府 沖縄総合事務局 南部国道事務所 調査第一課

4. 議事要旨：

- 委員：今回のバスタは新宿のようなものを想定しているのか。コミュバスやシャトルバスの発着地としては良いと思うが、基幹路線についても発着地とするのか。那覇方面へ向かう方々のスピードアップ（利便性向上）が重要であると考えているため、結節点を經由することで不便とならないよう配慮いただきたい。また、ドライバーの労働時間管理の問題もあるため、結節点に立ち寄ることで労働時間の増加につながらないように配慮いただきたい。
- 事務局：新宿と沖縄市とでは地域環境・ニーズも違うため、実情に応じた対応が必要と考えている。規模感としては、神奈川県田名バスターミナルが参考になるかと考えている。胡屋が発着点になるかどうかは、今後引き続き検討していく必要があると考えている。本検討会においては、路線バスやコミュバス、今後入ってくることが想定される高速バス、自転車といった色々な乗り物をつなぐことで利便性が上がることを中心に検討していきたいと考えている。
- 委員：先行する国道330号改良による道路混雑緩和が、沖縄市の胡屋・中央地区のバスサービス向上には重要である一方で、沖縄市のバスタ事業においては、地域の「回遊性向上」が重要であることを謳っている。先行する国道330号の胡屋交差点改良事業に伴うパークアベニューの相互通行化の都市計画決定事業について、歩行者回遊性向上の観点から計画の一部見直しの可能性もあるように思うが、考えをお聞きしたい。
- 事務局：南部国道からの意見としても歩行者に優しい回遊性の向上はバスタに求められるところだと考えている。中央パークアベニューが片方通行から相互通行になってしまう点は、回遊性の面で今後検討が必要になってくると考えている。都市計画されている相互通行化のため、すでに決まったところについては致し方ないが、運用については柔軟に考えていく。具体的には、相互通行をイベント時には歩行者天国にするなどの機会を設けることを考えている。
- 委員：相互通行化の都市計画決定をした当時はバスタ事業がなかったもので、状況は大きく展開しているように思われる。バスタ整備に伴い歩行空間を増やし、沖縄市中心市街地の分散型の地域交流機能や駐車場機能の再配置などがバスタと連携して回遊性を高める上で重要になっていると考えられるが、この点について意見をお聞きしたい。
- 事務局：中央パークアベニューの相互通行化については、地元からの要望があり決定された経緯がある。地元とも今後引き続き道路空間の使い方について意見交換していきたいと考えている。11月には、パークアベニューを通行止めにして車道空間を活用する社会実験を実施する予定となっており、道路空間の利活用を地域の方々と一緒に取り組んでいくことで、将来的に柔軟な運用につなげていきたい。
- 委員：沖縄県のバス運賃無料化実験に参加させていただき、多くの方がバスを利用していたことに感動した。乗り換え利用の方も多く、滞留機能の充実が必要という印象を持った。また沖縄市での社会実験も期待が高まっており、訪問者増加による地域活性化や住民の方が使いやすくなるようなバスタプロジェクトの議論を引き続きお願いしたい。
- 委員：部会、検討会、委員会と言葉がいくつかあったが、会議は全体として何回開かれる予定か。また、各会の役割について教えていただきたい。
- 委員：回遊性の話題が出ていたが、まちづくりも含めた検討はどこの会で入るのか。
- 事務局：開催回数については、現在想定で掲載しているが、今後の検討状況踏まえ効率的に開催して

いきたいと考えている。本検討会の役割については、各会の全体総括及びそれらを踏まえた必要な交通機能について特に議論していきたいと考えている。回遊性については沖縄市のまちづくり検討委員会にて議論していただくと考えている。

委員：バスタ事業の最も大事な点は便利に乗り換えられることと考えている。自動車とのアクセスの観点では、駐車場等のスペースが用意されないと機能しないと思われる。地下スペースの活用も想定されるのではないかな。

事務局：今後、自動車アクセスといったニーズも確認しながら、地下の利用についても検討したい。

委員：沖縄市～うるま市間の人々の往来も多いが、沖縄市からうるま市方面の地域との連携についてはどのように考えているかな。

事務局：うるま市方面からの流動が多いというのは今回の検討で確認できたが、こういった利用をされているのかについては今後より詳細に分析し、うるま市等北方面との連携性も高めていきたいと考えている。

委員：連携体制については、本委員会、沖縄県公共交通活性化推進協議会、沖縄県地域公共交通協議会、沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会が連携して検討していく体制という認識で問題ないかな。

事務局：その認識で問題ない。

委員：沖縄市周辺については、多くの観光客が北谷・沖縄市の両方に来訪している。来訪者の周遊活性化のために必要な機能や商店街とのアクセス性の向上等、様々な観点があると思うが引き続き検討いただきたい。防災機能の点については、観光客を県外へ避難誘導させるために那覇空港や那覇港への移動の視点も重要であるため、その点についても引き続き検討を進めていただきたい。

以上